

4 農林水産分野におけるCO₂の見える化の推進

- 農林水産分野における温室効果ガスの「見える化」の基本的考え方や省CO₂効果の表示のあり方を取りまとめた「農林水産分野における省CO₂効果の表示の指針」策定。
- 生産者による農産物の生産と加工を対象とした「農産物簡易CO₂算定ツール」の開発。
- 「農林水産分野のCO₂「見える化」ポータルサイト」や「土壌のCO₂吸収「見える化」サイト」を公開。



私たちが地球上で将来に渡って繁栄し続けるためには、持続的な発展が不可欠です。地球温暖化問題はこの持続的な発展への脅威として人類に迫っており、あらゆる分野での中長期的な取組みが必要とされています。農林水産分野でも、ハウスでのエネルギーの使用、肥料や農薬の使用等を通じて、生産や加工、流通・販売等の各段階から環境へ負荷を与えています。このため、環境負荷の少ない方法で商品を作る努力が求められます。このような努力は、地球温暖化防止に貢献するだけでなく、その努力を見える化することで、生産者自身の経営改善のきっかけや「作り手の努力」を消費者の皆さまにご理解いただきブランド力の向上につながると期待されます。

CO₂を「見える化」する方法は、「カーボンフットプリント（CFP※）」を始め様々な方法があります。本サイトではそれらの農林水産分野のCO₂「見える化」に関する各種の情報を紹介しています。

※ CFP：Carbon Footprint of Productsの略称（CFPIは、農林水産物に限らず、商品やサービスのライフサイクル（原材料の調達、商品の生産、流通・販売、使用、廃棄・リサイクルに至る商品の一生）におけるCO₂排出量を「見える化」する取り組みです。）

※ このウェブサイトは、農林水産省委託事業「平成24年度「CO₂の見える化」データベース整備事業」により作成されました。



What's New

● 土壌のCO₂吸収量を簡単に計算できます。

本サイトでは、場所や管理の情報を入力すると、土壌のCO₂吸収量を計算することができます。あなたの畑のCO₂吸収量を推定してみませんか？

調べたい場所 + 管理方法 = 土壌のCO₂吸収量

＜くわしくはこちら＞



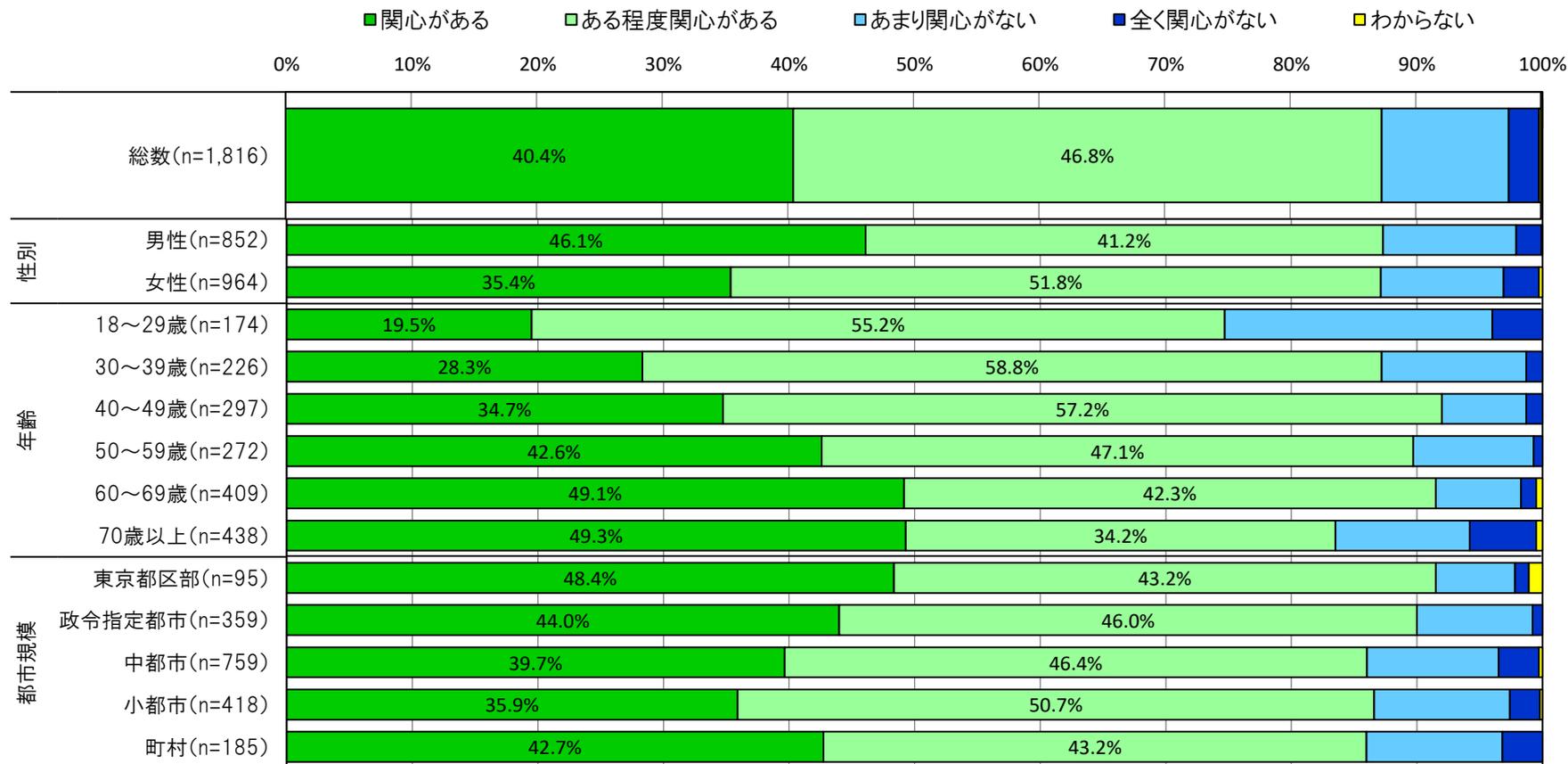
● 土壌炭素量と地球温暖化

土壌中の炭素が増加すると、その分、大気中のCO₂を吸収したことになるので、地球温暖化の緩和に役立ちます。

＜くわしくはこちら＞

4-1 国民の地球環境問題に対する関心

- 国民の87%が地球環境問題に関心を示している(「関心がある」+「ある程度関心がある」)。
- 男性の方がより積極的な関心を示している(「関心がある」の割合:男性=46%、女性=35%)。
- 高年層ほどより積極的な関心を示している(「関心がある」の割合:18~29歳=19%、30~39歳=28%、40~49歳=34%、50~59歳=42%、60~69歳=49%、70歳以上=49%)。
- 都市規模が大きいほどより積極的な関心を示している(「関心がある」の割合:東京都区部=48%、政令指定都市=44%、中都市=39%、小都市=35%、町村=42%)。

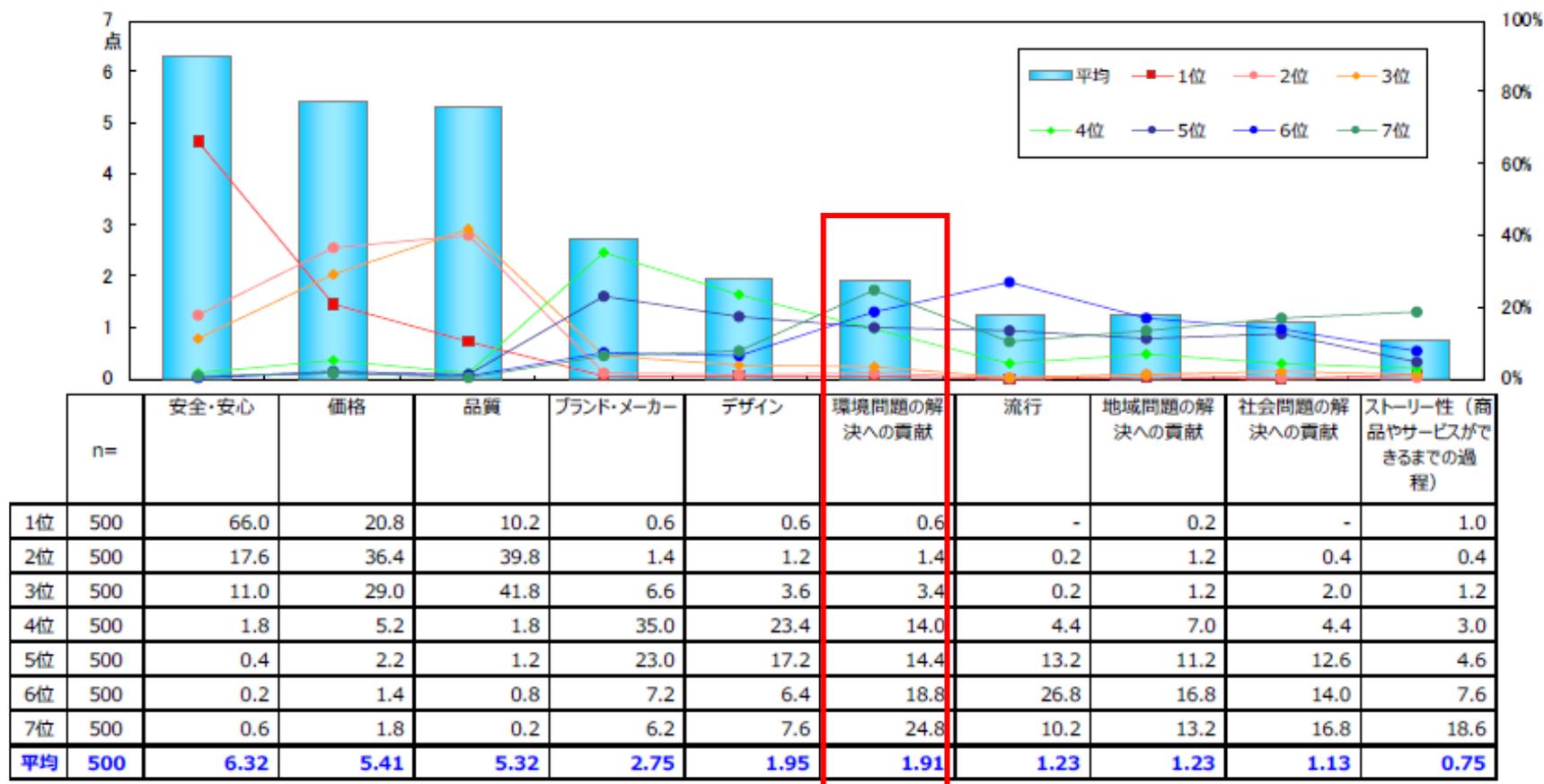


備考:内閣府世論調査「地球温暖化対策に関する世論調査(平成28年8月調査)」から作成。

調査では、「あなたは、地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少などの地球環境問題に関心がありますか。それとも関心がありませんか。この中から1つだけお答えください。」と聞き、「関心がある」、「ある程度関心がある」、「あまり関心がない」、「全く関心がない」、「わからない」の5つの選択肢を提示。

4-2 国民の食料品購入時に重視する観点

- 食料品の購入の際、「安全・安心」、「価格」、「品質」を重視する者が上位を占め、「環境問題の解決への貢献」は6番目と低位。
- 国民の地球環境問題に対して関心が高いことが、消費行動には繋がらない。



※平均：1位を7点、2位を6点・・・6位を2点、7位を1点と重み付けして算出

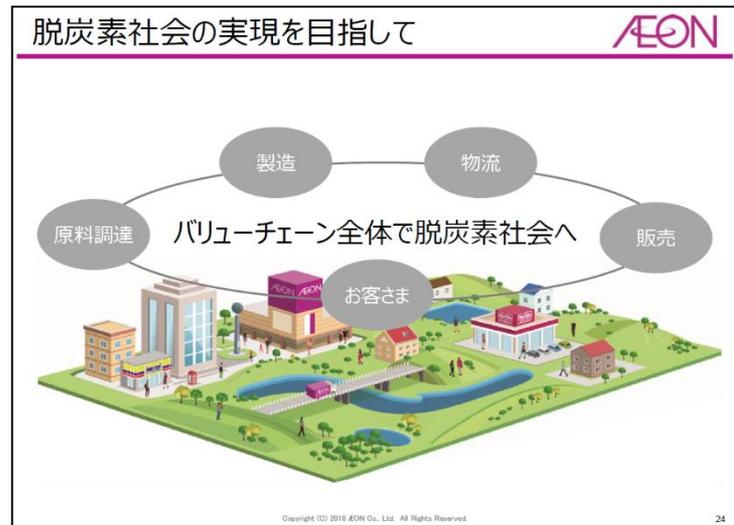
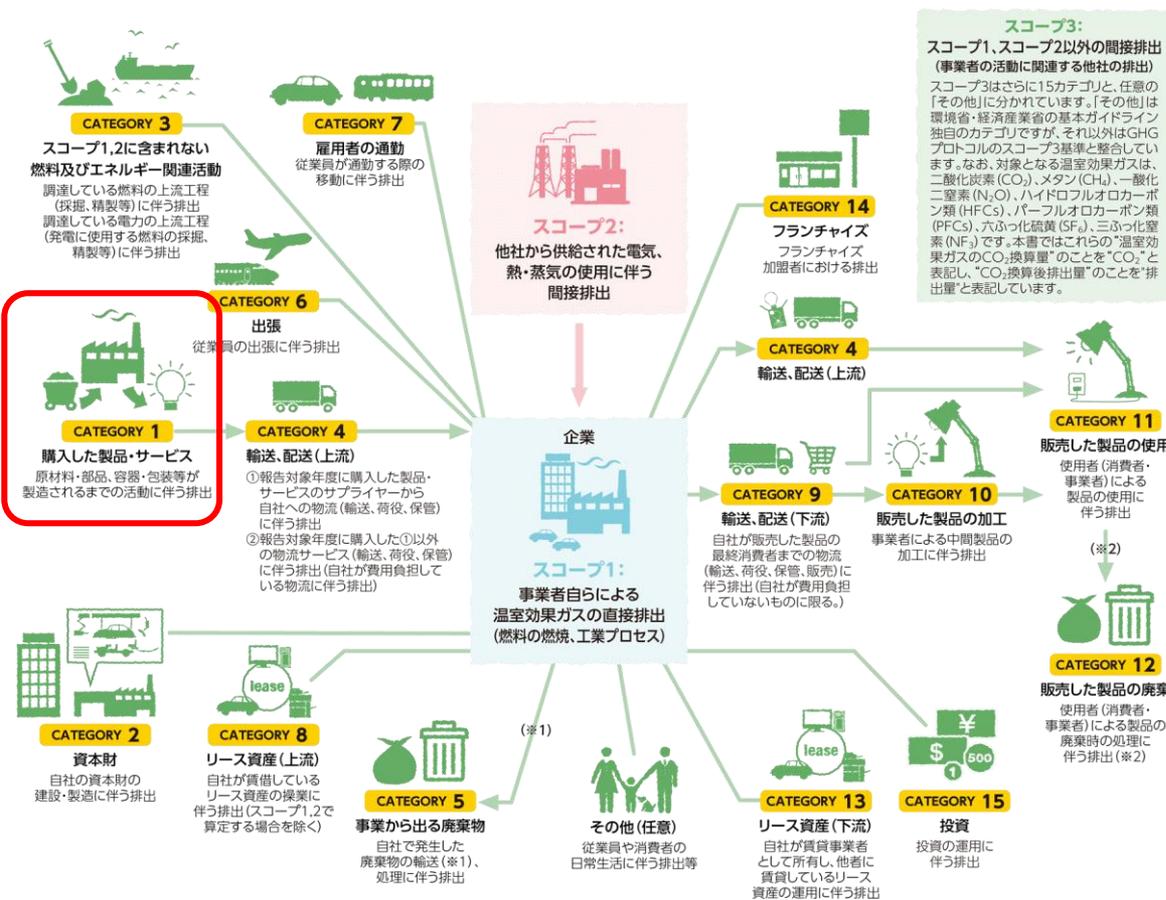
平均値（点）＝{(7点×1位の回答数) + (6点×2位の回答数) + … + (1点×7位の回答数)} / n

出典：平成29年度消費者庁委託調査「徳島県における「倫理的消費（エシカル消費）」に関する消費者意識調査」（調査対象：徳島県の16～70歳の男女各250名）

調査では、「あなたが、以下の商品やサービスを購入する際に重視する観点はどれですか。重視する順に、1～7位までお答えください。ここでは、「食料品」の購入についてお答えください。（お答えはそれぞれ1つ）※特に重視する点がない方は、強いて挙げればとお考えになってお答えください。」と聞き、「安全・安心」、「価格」、「品質」、「ブランド・メーカー」、「デザイン」、「環境問題の解決への貢献」、「流行」、「地域問題の解決への貢献」、「社会問題の解決への貢献」、「ストーリー性（商品やサービスができるまでの過程）」の10の選択肢を提示。

4-3 サプライチェーン全体における排出削減

➤ 自社製品・サービスに係る調達・物流・使用・廃棄といったサプライチェーンの上流・下流に対して排出削減を進める動きが活発化



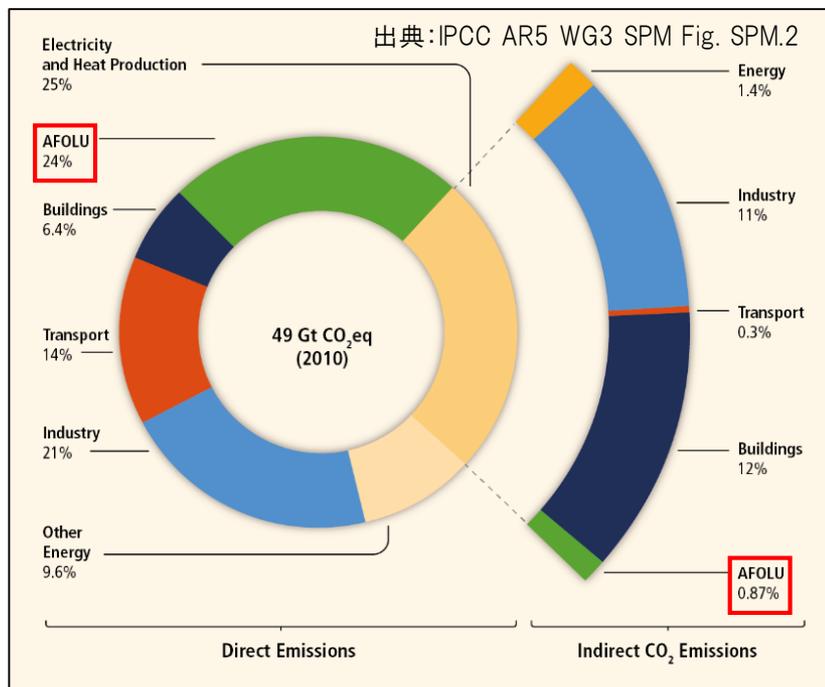
出典:「イオン 脱炭素ビジョン2050」(2018年3月28日プレスリリース)

サプライチェーンにおける温室効果ガスの排出

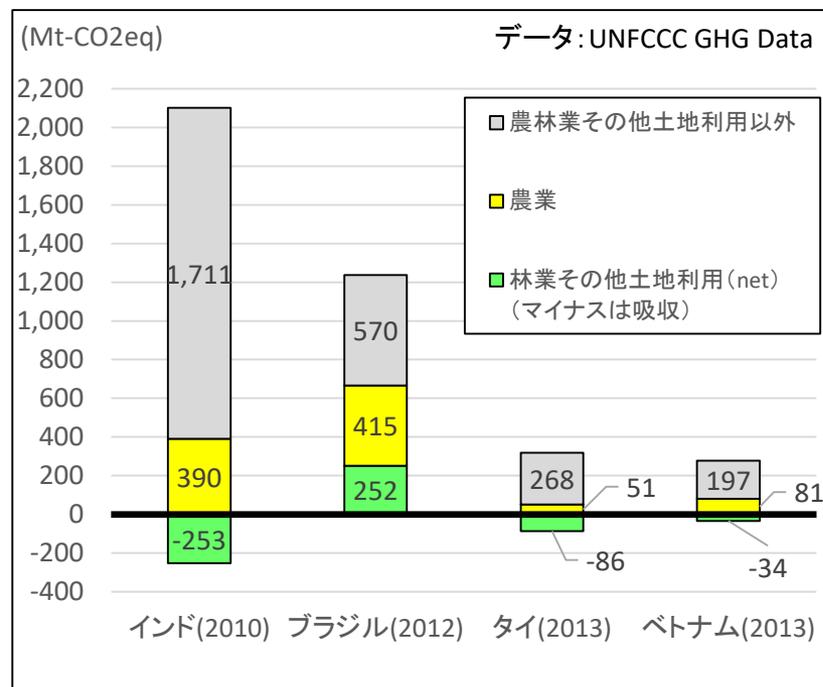
出典:グリーン・バリューチェーンプラットフォーム (環境省、経済産業省)
http://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/supply_chain.html

5 開発途上国の温室効果ガス排出量

- 世界のGHG排出量の1/4が農林業・その他の土地利用(AFOLU)部門からの排出。
- 開発途上国の温室効果ガスの排出は、農業からの排出割合が高い。



経済部門別の人為起源のGHG排出量



開発途上国の温室効果ガス排出状況